

# Q & A あなたの疑問に答えます

**■考慮すべき3つのポイント**

まず一つ目は会計上の側面です。パソコンなどの情報機器が買い取りかリースかによって異なってきます。自社買取の場合は基本的に10万円以上の場合には減価償却しないといけません。仮に償却が終わる前に新しいパソコンに買い替えても、古いパソコンは原則として税務上償却が終わるまで資産として残ることになります。また、平成18年3月末までは、30万円未満の少額減価償却資産を取得した場合は全額損金に算入でき

ます一つ目は会計上の側面です。やフエアなどの会場風景、中古物件の評価など、画像データを確認することにより、遠方でもその場と同じ臨場感を得ることが出来ます。また、動画を使うことにより「動きのある物や事」の伝達が容易になります。会議の板書を撮影して画像データを議事録代わりに配布することで、終了と同時にすぐに資料の配布ができる、など作業の効率化も望めるでしょう。

**■活用する際の注意点**

とても便利な画像データですが、内容だけでは後日判別ができない、紛失すると二度と再作成出来ないとい

**3つの考慮点**

- 新しいパソコン欲しい
- まだまだ使えないのかな

会計上の側面    技術的な側面    企業戦略の側面

情報機器は新しいもの、古いものの両方にメリットとデメリットがある。交換の際には自社の課題を明確にした上で、その課題に対処する手段を考えることが望ましい。

（回答）ITコーディネータ  
NPO東京ITC 今村 孝  
<http://www.npo-tokyoitc.jp/>

**Q2** パソコンなどのコンピュータ機器は何年ぐらい利用できるのでしょうか？

**A** 社員から「そろそろ新しいパソコンにしないと仕事が出来ない」と言われると、経営者は困ってしまいます。新聞や雑誌、量販店などでは新しいパソコンやプリンターなどを次々と宣伝していますが、新製品が発売されたからといってその都度買い替えるわけにはいきません。情報機器の耐用年数を考える場合には、次の3点から整理をするといでしょう。

ますので、買い替えの時期を決める一つの要素にもなるでしょう。リースの場合は経費処理ができ、資産管理の手間が不要になります。しかし、リース途中で新しい機器を導入する場合は古い機器の解約処理が必要になり、結果的にかなり高額の買い物になる場合があるので注意が必要です。

二つ目は技術的な側面です。最近ではインターネットも高速になり、画像や音声なども利用できるようになりました。商品案内、操作説明、教育資料など、文字のみで説明するのは写真や音を使うのでは天地の差があります。ましてや、今は競争の時代ですからこれらの新しい技術を上手に活用して、他社との差別化を図りたいものです。

多くのパソコンは現在、マイクロソフト社のウィンドウズ（Windows）というOSを搭載しています。このOSと呼ばれる基本ソフトは1995年にWindows 95が発表

され、バージョンアップを重ねながら、2001年にWindows XPが発表され現在に至っています。当然このOSが異なるとその上で動く業務ソフトも異なってきます。新しいパソコンで作成した報告書が古いパソコンでは読めないという現象が起こるのはそのためです。インターネットの時代になり、電子申請や企業間取引など相手の状態に合わせておかないと業務処理が出来ないということも発生します。

三つ目は企業戦略の側面です。企業内での改革や改善のケースと買取、統合、提携、法制度対応など外部要

因によるケースがあります。企業内部の場合は費用対効果や切替作業負担などを考えて段階的に切り替えていくのが一般的ですが、外部要因の場合は待たなすから、事業や取引継続のために、費用よりもタイミングが優先されます。

これらの三つの側面を組み合わせ情報機器の耐用年数を考慮することが大切です。頻発するコンピュータウイルス対策には古いパソコンの方が安全な場合もありますし、従来使ってきた業務ソフトが新しいパソコンでは動かず、古いパソコンを探して購入したという例もあります。情報機器は必ずしも新しい製品が良いとは限らないことを理解しておきましょう。

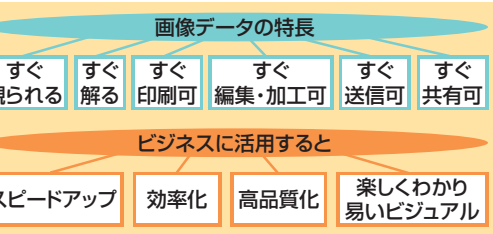
（回答）ITコーディネータ  
NPO東京ITC 今村 孝  
<http://www.npo-tokyoitc.jp/>

# Q & A 会社と情報化 あなたの疑問に答えます

**Q1** 画像データを保存したり活用したりする際の注意事項を教えてください。

**A** カメラ付き携帯電話から本格的なデジタル一眼レフまで、ビジネスに活用できる画質のカメラが手軽に購入でき、画像データを容易に扱える時代がやってきました。画像データの特長として、①撮ったその場ですぐに確認できる、②遠隔地に素早く送信でき、情報の共有が簡単、③写真の編集や加工が出来、各種資料などに添付することが可能、などが挙げられます。

画像データの利用は書類の質の向上や作業のスピードアップに役立ちます。例えば工事現場等の進捗状況



大切な画像データの原本は、後日利用の場合でも取り扱いやすいように、撮影日時、撮影場所別のフォルダに分類して保存するように努めましょう。そして万が一の事故や障害に備えて、必ずCD-R O Mなどにバックアップを取り、画像データを編集加工した場合も編集加工後の画像データと原本を別に保存す

**画像データの特長をビジネスシーンで活用することで、業務の質の向上とスピードアップ、顧客満足度の向上を図ることが出来る。画像の管理に関するルールを制定して、上手に取り入れたい。**

（回答）ITC近畿会 生田 勝  
<http://www.itc-kinki.jp/>

**Q2** パソコンなどのコンピュータ機器は何年ぐらい利用できるのでしょうか？

**A** 社員から「そろそろ新しいパソコンにしないと仕事が出来ない」と言われると、経営者は困ってしまいます。新聞や雑誌、量販店などでは新しいパソコンやプリンターなどを次々と宣伝していますが、新製品が発売されたからといってその都度買い替えるわけにはいきません。情報機器の耐用年数を考える場合には、次の3点から整理をするといでしょう。

ますので、買い替えの時期を決める一つの要素にもなるでしょう。リースの場合は経費処理ができ、資産管理の手間が不要になります。しかし、リース途中で新しい機器を導入する場合は古い機器の解約処理が必要になり、結果的にかなり高額の買い物になる場合があるので注意が必要です。

二つ目は技術的な側面です。最近ではインターネットも高速になり、画像や音声なども利用できるようになりました。商品案内、操作説明、教育資料など、文字のみで説明するのは写真や音を使うのでは天地の差があります。ましてや、今は競争の時代ですからこれらの新しい技術を上手に活用して、他社との差別化を図りたいものです。

多くのパソコンは現在、マイクロソフト社のウィンドウズ（Windows）というOSを搭載しています。このOSと呼ばれる基本ソフトは1995年にWindows 95が発表

いうデメリットもあります。そのことを考慮に入れて、予め以下のようなルールを決め、画像データの管理を行うと良いでしょう。

(1) 画質の確保とデータの保存

ホームページや資料中の画像として利用するのなら数十万画素、L判サイズや葉書サイズの写真なら200万画素以上、A4サイズなら400万画素以上の画素数を確保するとよいでしょう。画像データのサイズ変換や編集加工はカメラに無料で付いてくるソフトでも容易に出来ます。

大切な画像データの原本は、後日利用の場合でも取り扱いやすいように、撮影日時、撮影場所別のフォルダに分類して保存するように努めましょう。そして万が一の事故や障害に備えて、必ずCD-R O Mなどにバックアップを取り、画像データを編集加工した場合も編集加工後の画像データと原本を別に保存す

るように心がけましょう。

(2) 画像データを送るときは

大量の画像データを送る場合、必ず事前に相手の了解を取ってから送るようにしましょう。複数の人に画像データを送る場合はインターネット上の「ファイル共有サービス」などを利用し、必要な人だけが取得できるようにすると転送量を減らすことが出来ます。

(3) 公開、活用する場合の注意

他人の画像データや写真を公開、公表するときには著作権、肖像権への注意が必要です。その場合は事前に許可をとるようにしましょう。重要な画像データは暗号化などにより盗聴、改竄、流用を防ぐようにすると安心です。

（回答）ITコーディネータ  
NPO東京ITC 今村 孝  
<http://www.npo-tokyoitc.jp/>